

外国語科

書く力を育成する段階的指導の研究

—「英文日記」を書くまでのプロセスを通して—

小 廣 川 和 恵

1 はじめに

学習指導要領外国語編¹⁾には、「書くこと」に関する目標として次のようにある。

英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

この目標を踏まえ、「書くこと」の指導事項(オ)では、次のことが示されている。

自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

以上のことから、英語で書く力を育成するためには、まず授業において生徒が自分の考えを表現し、たくなるような言語活動を設定することが大切であると考える。また、毎時間の授業で書く活動を設定し、書くことに慣れ親しませることが必要である。さらに、読み手意識を持たせたり、文と文のつながりを考えさせたりする指導方法の工夫が求められている。

本研究では、中学1年生が「英文日記」を書くまでの段階的指導について考察する。生徒は初歩的な英語を用いて日記を書く。内容は日常の記録から特別な日の出来事まで、生徒の生活に密着している。体験した出来事と感想(自分の考えや気持ち)を書く。日記を書くことが生徒の習慣となれば、書くことに慣れ親しむことができる。このように、日記を書くことは、書く力の基本となる言語活動であると考え。そこで「英文日記」を書くまでのプロセスを分析し、事前にどの段階でどんな力を身につけておくと日記を書く際に効果的であるか、実践を振り返って考察したい。

2 研究方法

(1) 対象生徒

広島大学附属三原中学校7(中学1)年生

(2) 調査時期

平成25年2月

(3) 事前準備と段階的指導

「日記」を書く単元に向けて次のことを行った。

- ・書く力に関する事前調査と課題への手立て
- ・モデル文の分析と事前の指導
- ・be動詞(過去形)と感想の述べ方の指導
- ・コミュニケーション活動と書く活動の習慣化

(4) 「日記」の授業実践について

事前の取り組みを活かし、「日記」の授業実践を行った中から、特に学習過程で工夫したことを挙げる。

3 事前準備と段階的指導

(1) 書く力に関する事前調査と課題への手立て

事前に生徒の「書く力」がどの程度かを把握し、課題に対する手立てを考えた。「休日の過ごし方」について、辞書を使って20分程度でどのくらいの内容と量を書くことができるかをテストした(図1)。普通の休日の過ごし方と、単元の最後に日記として書く特別な日の出来事を比較することもできると考えた。

生徒は辞書を使ってたくさんの量を書こうとしていたが、主語の「I」ばかりが並んでいたり、思い付いた順に文を書いていたりしたものが多かった。また、書いた量が少なかった生徒もいた。

英語 7年生 ライティングテスト

あなたは休日にどのようなことをして過ごしますか。朝起きてから夜寝るまでのことをつながりを考えて、書きましょう。辞書を使ってもらいません。

キーワード：always / often / usually / sometimes など… 頻度を表す副詞
and / but / so … などの接続詞
with 人 … ～と一緒に

I usually get up at seven on Saturdays.
I always study with my brother from nine to eleven o'clock.
I sometimes read a book in the morning.
I always learn English, science and social studies on Saturdays afternoon, but I'm not good at science.
I often watch TV at seven in the afternoon.
I usually eat dinner at eight.
I sometimes talk with my family after dinner.
I do my homework occasionally.
I usually go to bed at eleven thirty.

図1 事前のライティングテスト

事前調査の課題から、次のような手立てで言語活動を行うことにした。

- ・主語に“I”ばかり用いている⇒自分だけでなく家族や友達を主語にした文を書く。継続的な活動として、ペアで会話した後、主語を三人称にして報告する文を書く。
- ・思い付いた順に文を書いている⇒文と文の意味上のつながりを考えるために、複数の文の並べかえ問題を行うことにより、つながりを考える。
- ・書いた量が少ない⇒毎時間書く時間を設定し、書くことに慣れさせる。

(2) モデル文の分析と事前の指導

教科書のモデル文では、第一文に“went”を用い、どこかへ行った時のことを書いている。続いて外出先での出来事を詳しく述べている。例えば、買い物をしたことや食べたものを“got”や“ate”を用いて表し、話題を広げている。そして最後に感想を加えて締めくくっている。

モデル文の構成と内容を参考に、日記を書く単元に向けて次のことを事前指導することにした。

- ・「休日の外出」「食事」「買い物」など、日記に書くことが予測される話題でのコ

- ・コミュニケーション活動を帯活動で行う。
- ・感想を述べる表現を紹介し、出来事につけ加えて述べる練習をする。

次に教科書単元の系統性について考察した。Sunshine English Course では、中1の後半と中2の前半に日記を書く単元がある。中1と中2のそれぞれのモデル文を比較することで、現段階で定着させておくべき文章レベルを把握した。

話題→出来事→感想

【中1教科書のモデル文】

I went to Osaka with my brother by train. The train started from Shin-Yokohama station at six fifteen in the morning. We arrived at our grandparents' house at ten thirty. My grandparents got takoyaki for us. I ate ten! I love takoyaki. (6文) (Sunshine 1)

【中2教科書のモデル文】

My father and I went cycling during “Golden Week.” We went to Nikko and we saw the Kegon Falls. We met many foreign tourists there. They were taking pictures. It was a long trip, so I was very tired. But the air was fresh and I was happy. It was an exciting trip. (7文/単文で数えると10文) (Sunshine 2)

比較により、日記を書く際の文法的な指導事項を次のようにまとめた。

【中1・中2のモデル文から】

- ・主語を変え、多様な視点から文を書く。
- ・“with”や“from”など前置詞を効果的に使うことによって情報を具体的に伝える。

【中2のモデル文から】

- ・“and” “but” “so”などの接続詞を使って文と文のつながりを表す。
- ・be動詞の過去形と形容詞を使って、その出来事の様子や自分の気持ちを述べる。

中1のモデル文では接続詞や be 動詞の過去形を用いていないが、段階的に指導することで負担少なく表現の幅を広げることができると考える。言語活動の中で文法指導ができるように、意図的にモデル会話に文法事項の要素を含めたり、生徒が書いた英文で特徴的なものを紹介したりしながら基本事項を確認した。

次に、予想される生徒の英文を考えた。

【予測される生徒の英文】

神明市の祭りに行ったことについて

I went to *Shinmeiichi* with my friend on February 8. I got *taiyaki* at a street stall. My friend got *takoyaki*. We ate them together. Then we met some other friends there. We talked a lot. I had a very good time. (6文)

活動の試合について

I joined a table tennis club from nine to twelve last Saturday. I played table tennis with my friends. We practiced very hard. I didn't win the game but I really enjoyed it. I had a lot of fun. (6文)

(3) be 動詞 (過去形) と感想の述べ方の指導

be 動詞の過去形は中2で学習することになっているが、現在形を過去形に置き換えることは容易であり、知識として与えた。過去の天気や出来事の感想を述べる際に、be 動詞の過去形を使って書くと便利である。そこで、授業始めに天気を聞く際、“How was the weather yesterday?” とたずね、生徒に “It was~” で答えさせるようにし、板書して定着を図った。また “I was happy/sad.” や “It was fun/interesting/ easy/ hard.” などの感想を述べる表現リストを与えて活用させた。

(4) コミュニケーション活動と書く活動の習慣化

上記のことを踏まえ、「日記」を書くという最終ゴールに向けて、それまでの授業でどのようなコミュニケーション活動が可能で、事前に何を書いておくと効果的かを考え、指導計画(表1)をたてて段階的に指導した。

表1 指導計画

単元	学習する文法事項	「日記」を書くことを目指したコミュニケーション活動
10-1	規則動詞の過去形	冬休みにしたことを話し、How about you?を使って相手に尋ねる。
10-2	過去形の疑問文	昨夜したことを話し、相手も同じことをしたかどうかを尋ねる。
10-3	Why? Because	好きな季節とその理由をたずね、それに答えられるようにする。

	~	好きなタレントやスポーツ選手と理由をたずね、それに答えられるようにする。
11-1	不規則動詞の過去形	普段よく食べる朝食と、今朝食べた朝食を友達に伝え、How about you?を使って相手に尋ねる。
11-2	過去形の疑問文	先週行った場所について、友達と会話する。
11-3		休日にしたことについて、感想を加えて話す。

「日記」を書くことを意識し、自分のことだけでなく、身近な人のことも書くことができるように、ペアで会話をした後、話した内容について書いて報告する活動を毎時間行った(図2~4)。

Program 10-1 冬休みにしたことを書おう。

例 A: I visited Yasukuchishima shrine. <私は靖国神社を訪れました。>
 I prayed for happiness. <幸福を祈りました。> How about you?
 B: I stayed home with my family and relatives. <私は家族と家にいました。>
 I watched "koushaku" on TV. <私はテレビで「紅白」を見ました。>

① 次の表現も使ってみよう。

I visited my grandparents' house.	祖父母の家を訪れました。
I helped my grandmother with her cooking.	祖母の料理を手伝いました。
I talked with my relatives a lot.	親戚とたくさん話しました。
I played card games with my cousins.	いとことカードゲームをしました。
I really enjoyed my winter vacation.	本当に冬休みを楽しみました。
I studied English very hard. *yをiにかえてed	英語を一学期の勉強しました。

② 冬休みにしたことを2文選び、自分のことにアレンジして対話しましょう。ジャンケンで勝った方から質問します。“How about you?” と尋ねて聞き返しましょう。Really? / I see. / Me, too. などの相づちの言葉を加えましょう。

③ 会話したことをもとに、自分のことと友達のことを書きましょう。*代名詞に注意

I visited Kiyomizudera temple.
 I prayed for happiness.
 Ken stayed home with his family and relatives.
 He watched "koushaku" on TV.

自分のこと I talked with my relatives a lot.
 I really enjoyed my winter vacation.
 友達のこと kenta played card games with his cousins.
 He kenta really enjoyed his winter vacation.
 友達のこと Singo played card games with his cousins.
 He Singo studied English very hard.

図2 「冬休みにしたこと」のワークシート

Program 10-3 好きな季節とその理由をたずね、それに答えられるようにしましょう。

【会話例】
 Ken: Which season do you like? <どの季節が好きですか?>
 Mike: I like summer. <夏が好きです。>
 Ken: Why do you like summer? <なぜ夏が好きですか。>
 Mike: Because I can swim in the sea. <なぜなら海で泳ぐことができるからです。>

① 季節の特徴を書きましょう。

[spring] I can see beautiful flowers. It's my birthday month. We can view flowers. (fall) I Fall is a beautiful season. It's not hot. We can play many sports.	[summer]// It is hot. We go to beach. We can swim. (winter) I I like snow. We can ski. We can skate.
---	---

② 例にならって、好きな季節を決めて会話しましょう。ジャンケンで勝った方から質問します。How about you? と尋ねて聞き返しましょう。

③ 会話したことをもとに、自分のことと友達のことを書きましょう。

【報告】⇒ Mike likes summer because he can swim in the sea.

自分のこと I like spring because it's my birthday month.
 I like spring because I can see beautiful flowers.
 友達のこと Ms. Ayuna likes summer because she can go to beach and she can eat many watermelons.

図3 「好きな季節とその理由」のワークシート

Program 11-1 普段よく食べる朝食と、今朝食べた朝食を友達に伝えよう。

I usually have rice and miso soup for breakfast.
<僕はよく朝食にご飯とみそ汁を食べます。>
 But this morning, I had toast, yogurt and milk. <でも今朝はトーストと牛乳でした。>

① 朝食のメニューを考え、追加して書きましょう。

rice	toast	juice	rice
eggs	bread	coffee	miso soup
natto	sandwich	milk	fish
fish	salad	tea	salad
miso soup	yogurt	orange juice	green tea

② 例にならって、口の中に自分の朝食のメニューをあてはめ、会話しましょう。
 ジャンケンで勝った方から言います。
 How about you? と言って聞き返しましょう。

③ 会話したことをもとに、自分のことと友達のことを書きましょう。

【報告】⇒ I usually have rice and miso soup for breakfast.
 But this morning, I had toast and milk.
 Mike usually has _____ for breakfast. *has に注意
 But this morning, he had _____.

自分のこと I usually have rice, miso soup, fish, salad and green tea for breakfast.
 But this morning, I had toast and yogurt.

友達のこと Mr. Okano usually has toast and green tea for breakfast. He had them this morning too. He had a Taiyaki on "Shinmei Ichi" days.

図4 「普段と今朝の朝食」のワークシート

主語を三人称にして報告する文を書いた際、代名詞の間違えが多くあった。日本語では名前を繰り返すが、英語では代名詞に置き換えなければならない。また、所有格の代名詞は日本語では言わなくても通じる場合があるが、英語では常に必要である。そこで、第三者のことを繰り返し書くことによって代名詞の使用に慣れ、日記を書く際に適切に使用できるようにしたいと考えた。

以上のような段階的指導を行った後、「日記」を書く単元に入った。

4 「日記」の授業実践

(1) 単元名

Sunshine English Course1
 「POWER-UP Writing 2 日記①」

(2) 単元の目標

- ・間違ふことを恐れず積極的に書いている。
 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・過去のある話題について、具体的に体験した出来事を書き、最後に感想を加えてまとまりのある文章を書くことができる。
 (外国語表現の能力)

(3) 単元計画

- 第1次：日記のモデル文を読み、書き方を学ぶ
- 第2次：「ある日の自分の日記」を書く
- 第3次：文章を推敲する

(4) 学習過程で工夫したこと

- ①まとまりの良い文やつまずきやすい文の確認
 ⇒これまでの言語活動で生徒が書いた文を取り上げ、スライドで視覚的に示し、全体で共有させた。

【まとまりの良い文の例(生徒作品)】

I usually have rice, fish and miso soup for breakfast. But this morning, I didn't have breakfast because I was very (busy).

* () 内に入る形容詞を考えさせた。

【つまずきやすい文の例(生徒作品)】

I went to Shinmeiichi with friend.

I had taiyaki. It is hot.

*訂正箇所を考えさせた。

- ・「私の」という代名詞“my”を入れる
- ・be動詞を過去形“was”にする

- ②モデル文のキーワードを抜き出し、逆にマッピングを書いていく活動(図5)⇒5W1H(いつ/どこで/だれが(だれと)/何を/どのように/なぜ)という基本情報と感想を書くことを意識するために、どのようなタイプのキーワードが必要かを把握させた。

【日記モデル文】

Wednesday, March 3, fine
 I went to Osaka with my brother by train. The train started from Shin-Yokohama station at six fifteen in the morning. We arrived at our grandparents' house at ten thirty. My grandparents got takoyaki for us. I ate ten! I love takoyaki.

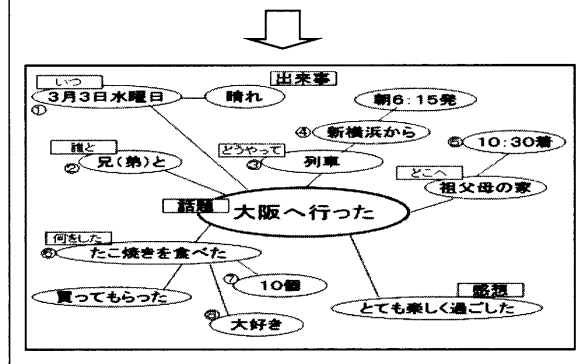


図5 モデル文のキーワードを整理

- ③順序よくまとまりのある文章を考える(図6)
 ⇒文と文を並べかえることによって、つながりのある文章を実感させた。

5 成果と課題

成果として、次のことが挙げられる。

- ・最終ゴールである「日記」を書く活動に向けて、生徒が書くと予測される日常の話題で段階的に言語活動を行うことができた。
- ・日記のモデル文を事前に分析したことにより、目指す英文の特徴と指導が明確となり、生徒にまとまりのある文章とはどのようなものかを考えさせることができた。
- ・「日記」を書くことを通して、まとまりのある英文の文章構成を生徒に考えさせることができた。

今後の取り組み課題を次のように考える。

- ・生徒同士で作品を読み合い、感想やアドバイスを伝え、学び合わせる。
- ・「日記」の単元と他の単元の関連から、書くことに関する系統性を考察し、書く活動を継続して設定する。
- ・「書くこと」の技能と他の3技能を効果的に統合させる。

6 おわりに

目標に沿った段階的指導について、どの段階でどんな力を身につけておくと効果的であるかを考察し、「書く」活動をスモールステップで設定したことで、生徒は「まとまりのある文章で日記を書く」という目標の達成に向けてステップアップしながら学習を進めることができた。今後も、書くことが楽しいと思えるようなテーマを与え、言語活動を充実させていきたい。そして、書いた文章を共有することで学びが深まるような協同学習について研究し、指導方法の工夫改善をしていきたい。

<引用・参考文献>

- 1) 文部科学省：「中学校学習指導要領解説 外国語編」， pp. 8-19, 2008, 開隆堂出版。
- 2) 檜葉みつ子：「英語で伝え合う力を鍛える！

1 分間チャット&スピーチ・ミニディベート28」， 2008, 明治図書。

- 3) 大井恭子編，田畑光義・松井孝志：「パラグラフ・ライティング指導入門 中高での効果的なライティング指導のために」， 2008, 大修館書店。
- 4) 松尾砂織・小廣川和恵・安松洋佳・檜葉みつ子・柳瀬陽介・松宮奈賀子：「新学習指導要領の下での授業実践―小中連携を意識した学習指導について（1）―」， 広島大学 学部・附属学校共同研究機構研究紀要， 第 41 号， pp. 219-228, 2012.
- 5) 松尾砂織・小廣川和恵・デミール千代・淵山真悟：「平成 25 年度幼小中一貫教育研究会外国語部会研究構想」， 2013.